

すまいるたん



汐入

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300



第5回

ジョイフル三ノ輪商店街の「ナガオカ」の五十嵐春雄さん（大正14〜平成19）の遺稿集「三ノ輪界わい名跡散歩」平成五年十二月より

回向院の入口を入って左側にあの非業の死をとげた吉展ちゃんの可愛いお顔をみた吉展地蔵が立っている。聞けば、吉展ちゃんの村越家は回向院が菩提寺との事、右側のホコラの中に井伊直弼のそれと相容れず、嘉永六年十月七日に小塚原にて処刑された橋本佐内（景岳）の墓がある。その後に勤皇の志士の墓が廿体位並んでいる。

広い墓所がある処を左に曲がると金網に包まれた四つの小さな墓がある。それは片岡直二郎（直侍）ねずみ小僧次郎吉・高橋お伝・腕の喜三郎のそれである。

ねずみ小僧次郎吉の墓は両国回向院にもあるので寺務所で尋ねた処、首は両国に首から下は小塚原にとの事でした。

泪橋方面より千住大橋位までが陸羽街道又は奥州街道ともいうが、回向院前から先は我々はコツ通りと呼ぶ。江戸から

最初の宿場が小塚原である。小塚原を略して「コツ」と昔は読んだが近所に火葬場があったから「骨」にひっかけという説がある。

そしてコツ通りには飯盛り女郎のいた廓があつたことはいまでもない。之は、吉原あたりとくらべるとかなり安直だったらしく「河竹黙阿弥の芝居「三人吉三廓初買」にも「こう、手前達は知っているか、此頃大層安い見世が出来たぜ。四百の転寝と湯豆腐に酒一本、おまけに湯へ入るとこのだ。何とすてきじゃないか」すると相方が「そいつは滅法安いものだ・・・やっぱり小塚原がいいよ」なんてくだりがある。

千住という土地遠く鎌倉時代に新井兵部政次が荒川の水中から小さな千手観音を拾いあげ三宮神山勝専寺に寄進したのがその名のおこりで初めは千手と書いたが、その後土地がひらけ、めでたいということから千寿となり、さらに人が住み着いたことから千住となったといわれている。

先程、火葬場と書いたが回向院の近くにそれはあつた。それは何処かは、こゝでは書くまい。

火葬場の前に寛文九年各宗から分れた寺院が建立され 乗蓮寺、宗源寺等十九ヶ寺の多きに及んだ。

然るに明治十年には之等の寺院は廃止されて共同火葬場となり茶毘の煙は絶ゆる時が無かつた。そのため異臭四隣に及び茲に於いてか有志相謀つて移転の請願をなし、遂に明治二十年に廃止移転となるのである。

博善社が資本金三十余万円を以て日暮里に創設。其の後、明治三十七年八月に三河島町屋に移転、現在に至るのである。

皆川重男氏によると歴代將軍は日光東照宮参拝の折、異臭にこれは何故かと家臣にご下問があり、返事に窮したとの事である。この行列は各大名が列席する事となつており、先頭より最後尾まで約廿十万人にもなり、十何キロにもなったとの事である。日光東照宮に於いて現在行われている千人行列の行事はその名残りである。

☆すまいるたんふれあい亭☆

◇9月25日（土）午後1時〜3時

南千住区民事務所西部ひろば館1F

キーボード・尺八の演奏で・歌声サロン

参加費100円

毎回20曲以上を皆さんで歌っています。

ぜひ、ご参加下さいませ

☆毎週市☆

9月25日（土）午後1時〜（12時半集合）

城北信用金庫駐車場前

空くじ無し 参加無料

